

小さな大学。それは、 一人ひとりと向き合える 強みをもつことです

愛知東邦大学 学長 山極完治

まとめ／堀水潤 撮影／近藤真悟



【学長プロフィール】1949年生まれ。中央大学大学院商学研究科博士後期課程修了。商学博士。教賀女子短期大学助教授、東邦学園短期大学商経科教授、東邦学園大学経営学部教授を経て、2007年より現職。

【大学プロフィール】1923年創立の東邦商業学校を前身に65年に開学した東邦学園短期大学が母体。2001年東邦学園大学として開学。07年に現校名に改称。経営学部(地域ビジネス学科)、人間学部(人間健康学科・子ども発達学科)

愛知東邦大学は、若くして小学校の校長を務め、その後、明治から大正期にかけて名古屋の近代産業の礎を築いた下出民義が晩年に創設した東邦商業学校を母体に行っています。教育の世界から一身を興し、教育の世界に戻っていった創学者の時代から、実学を重んじ、地域社会に貢献する職業人の養成に焦点を当ててきたのです。

建学の精神にある「真に信頼して仕事を任せうる人格の育成」。それを可能にするのは少人数教育です。本学は1学年の定員が350人で、学生一人ひとりと向き合い、対面性・対話性の高い教育ができる大学です。経営的には規模の論理がモノをいうこともあります。しかし、学長に就任し改めて感じたのは、ここには教育の本来の姿がある。小さな大学には希望があるということでした。学生への丁寧な対応は、入学予定者全員を対象とした「入学前セミナー」から始まります。講演やグループワーク、個人面談によって、大学進学に際して抱えている「不安」を「期待」に変えるために始めた取り組みです。また、就職活動を控えた3年生全員がリクルートスーツで臨む「就職合宿」もこのサイズの大学からできることだと思っています。私も

参加しましたが、模擬面接やプレゼンテーションを通じて、人前で話すこと、自分をさらけ出すことの苦しさを克服していく姿に大いに感銘を受けました。この取り組みは「小さな大学のキャリア支援」大きな夢を育てる就職合宿」として文部科学省の大学教育・学生支援推進事業に採択されています。

こうしたフェイス・トゥ・フェイスの教育や学生支援は、一人ひとりの持ち味や潜在力を引き出し、伸ばすという教育の本質に迫るものだと思っています。今後は、基礎学力の強化とともに、様々な取り組みを統合し、実体化していくことが課題です。これまで教育の世界には、「教員が教える」という意識が強くありましたが、「学生が主役」、「学生が学ぶ」ということに力点をおくことを心がけています。本学は地域に根を張り、地域に貢献する職業人を育成してきた大学です。「地域ビジネス学科」という全国初の学科名をつけたのも、07年に人間学部を新設し、健康や子育ての面から地域社会を支えようとしたのも、こうした姿勢の表れです。今後も、単なる就職率ではなく、「地元就職率」を意識しつつ、地域の発展を担う人材を育みたいと思っています。